

『セラピードッグとリハビリ④』

今回は『ドッグセラピーの効果』について書きたいと思います。
一概に効果といっても、何を根拠に効果と述べるか難しいところです。
そこで我々がやっている評価項目の一部を紹介したいと思います。

- ①日常生活の中の活動項目の評価
- ②バイタリティーにつながる評価。ある行動について自ら行っているか等。
- ③日中の不穏行動についての評価。認知機能評価を含む。
- ④身体の耐久性や持続性、円滑に安定して各動作が行えるか等。



セラピーを行う前の状態を評価・記録し、ある程度の期間で再度評価・記録し比較する。
認知症となれば、評価用紙上で一概に表す事ができないような様々な事も出てきます。

一例をあげると、Kさんという対象者の方は立ち上がりや歩行に関して不安定感が強く、
下肢筋力の低下がみられ、不意な立ち上がり等で転倒の危険性が高い為、わざと座面の低
い柔らかいソファ（座面が高めで固めの椅子などが立ち上がりやすい）に座っていただ
いていました。

認知症もあり言われた事の理解も不十分で、日中の過ごし方といえば、不意な立ち上がり
があったり、雑誌を広げでは読んだり配列を変えてみたり、目についたものを手に取って…と、
とにかく「何かしたいのだろうな」と思わせるような行動が見受けられる方でした。

しかし、上記のように、不安定な起立・歩行による転倒により2次的な障害発生（骨折など）
を考慮し、柔らかい低めのソファに座らされ、立ち上がるうにも立ち上がれないという行動
抑制をかけられ、行きたいところにも自由に行けない状態です。

そこで我々が考えた事、それは自らの力で立ち上がり、少しでも歩ける能力を強化し、それ
が出来る事で、ある程度のKさんの欲求を満たしていこうというものでした。

前回お話した、セラピードッグとの関係作りを行いながら、Kさんの日中の活動量を増や
すようにしていきました。

その結果、約2か月が経過した頃に行動抑制をかけていた筈の「柔らかい低めのソファ」
から立ち上がれるまでになりました。

立ち上がりがしっかりと行えるようになると、不意な立ち上がりがあっても転倒の可能性が
軽減され、それを見た職員も以前より落ち着いて対応する事が出来るようになり、介助にか
かっていた時間も短くなりました。

あくまでもこれは一例にすぎませんが、このような効果がセラピードッグによって誘発さ
れているのは、その方の「自発性」を上手く引き出せているからだと感じています。

理学療法士 渡元 義和



「行こう」

キビと散歩に!!



性格は社交的でとても穏やか、趣味は“読書と散歩”だった Kさん(85歳
男性) 入所されている施設では、認知症を患っているためコミュニケーション
をとることは困難ですが、いつもテレビの前でソファに、にこやかに座って
いました。

しかし、そこには本やビデオを手にとっては広げたり並べたり、立ち上がりた
いが立ち上がれずモゾモゾしたりと、「何かしたい!」と訴えているかの様な
Kさんの姿がありました。

Kさんは普段より気持ちがあれば、起立や移乗、歩行も出来る方でしたが、
下肢筋力の低下やコミュニケーションが困難なため、日常生活では起立・移乗
など、ほぼ全介助でした。そして、リハビリも必要ではあるがコミュニケーション
が困難なため、人でのみのリハビリでは、ほぼ不可能でした。

そこで、動物が好きで散歩が趣味だった Kさんに、歩行訓練の一環として、
キビの散歩をお願いしました。

『キビと散歩に行きませんか？』
「行こう」



普段コミュニケーションをとることすら困難な Kさんが、一言そう答え、
すんなり立ち上がったのです。

“キビと散歩に行こう”というポジティブな感情が行動に繋がり、如いてはK
さんの自発性を引き出したのです!

この日から、Kさんとキビの散歩(歩行訓練)が週3回のペースでスタートしま
した。歩行が不安定の為、始めはキビを車椅子に乗せ、車椅子を押しながら散
歩をしていましたが、そのうち手引き歩行へと変わり、少しずつ歩行も安定し
ていきました。

そして、導入から約2ヶ月後には『今日は山に行こうか』と笑顔でキビと一緒
に散歩をしているKさんの姿がありました。



ドッグセラピーは心の変化を認知させる!?



2匹の愛犬との生活の中で、犬に対して、人に接するのと同様に話しかけたり、犬たちの一挙手一投足に喜怒哀楽の情を持って、限りなく心が振るわされています。訓練をされていない我が家の犬たちでもそうなのですから、『名医ジャスティン』の中で起こっている奇跡ともいえる事実の結果は、ジャスティンたちセラピードッグ達が、犬とか人とかの枠をこえた動物の魂のコミュニケーションの賜物だと思います。

私は健康運動指導士として、『しなやかに動く体に導く健康法』を指導しています。

ヒト本来が持つ動く体にするためには、体の各部位はこう動くのだという感覚を認知させ、本人がそこを動かそうとする強い意志と共に何度も動かしていくことが、とても大切です。

私は、ジャスティンたちは人に心の変化を認知させているのではないかと考えています。だから患者さんに「やりたい！」という意志が芽生えているのだと思うのです。こんな困難なことができる彼らには、本当に『名医』という称号がぴったりですね。

今回コメント頂いたのは、白神桂子さんです。

健康運動指導士として、ご活躍中の白神さんは、以前よりセラピードッグへ愛着を抱いてくれており、ドッグセラピー事業部の活動にご支援・ご協力頂いております。

< 略歴 >

26年前にフリーのフィットネスインストラクターとして活動を始める。
平成22年10月『フリーマインド&ボディ株式会社』設立。
ボディワークのプライベートレッスンやパーソナルケアや
マタニティエクササイズ、ピラティスレッスンなど
各種健康運動の提供を行っている。

< 保有資格 >

- ・健康運動指導士(厚労省認定)
- ・BASピラティス
- ・ADI(JAFA)
- ・YBR・YFF プラクティショナー



白神桂子さん

ドッグセラピー コラム連載

地元紙 山陽新聞 夕刊のコラム「一日一題」、最終話『ライフワーク』です。

この8年間、私たちのドッグセラピーの試みについて何度かメディアで取り上げていただいた影響もあり、相当数の方が実施したいとの思いを持って見学に来て下さいました。今のところドッグセラピーについて国は何ら関与していません。ですからドッグセラピーからの直接的収入はありません、しかし犬やスタッフには当然それなりの経費がかかります。とお話しすると、大半の方は「スーッとなくなってしまう」といいます。

今、私は64歳、元気なうちにこのドッグセラピーが経済的に自立できる環境を作らなければと決心しました。いろいろ考えた末、介護保険への収支を日指して、昨年8月NPO法人「介護高齢者ドッグセラピー普及協会」を立ち上げ、私のように医療法人や社会福祉法人を運営している医師に広報活動を行い、仲間になってもらい、著効例

一日一題

NPO法人介護高齢者ドッグセラピー普及協会代表
生長 豊健

ライフワーク

・有効例を体験してもらって、介護保険関連の学会で発表してもらおうと考えました。全国で10、20人の仲間ができれば随分と状況は変わり、厚労省もその効果を、認めてくれるのではないかと。そうすれば介護保険収支への道もきつと見えてくる。そんな思いです。

また、この8年間の経験より、認知症の方への取り組みについてかなりの手ごたえを得てきました。認知症の方は大変な勢いで増え、すでに大きな問題になりつつあります。国もその対応に苦慮している姿が見て取れます。この分野で今後より多くの症例を経験し、効果を上げて行こうと考えています。そしてこのドッグセラピーという新しい試みが、わが国にしっかりと根を下ろして、皆さま方に喜んでいただける日を夢見てライフワークとして取り組んで行く所存です。

2010.5.31



さくら満開

ジャスティンも笑顔

(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

<http://www.therapydog.jp>